女學雜誌

第二百五十九號
明治二十四年四月四日發兌

女學生自由洋行の策

老西郷
ステッド氏を訪ふ

女學校長に警告す

古花見
瓜生岩女史を訪ふ

若松賤子が英文の評

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 259. APRIL, 4TH. 1891.

EDITORIAL:—To the Presidents of the girls Schools and to the Parents of the female students.
WORDS AND DEEDS:
MISCELLANEOUS:—An interview with William Sted. (Mineko).
The Simplist methode of Writing (Midori) The ancient "hanami," picnic for cherry blossions) (Momiji) The Female andiense to the Diet. An Interview with Miss Iwa Uriu the Charger of the Asylum. (Oino Fumi.) Condition of the Women in Germany. Miyoshi Taizo).
LITERATURE:—Japanese Poems. (Anzanshi noya) "Kagetsu Sôshi:
NOVEL:—"Fuunkyō." (Continued) (Unpōshi).
CRITICAL NOTES: "The two Mukasuke" (Muzōshi) The New styled "Baikashiu"—the collection of Poems, (Unpōshi) The "Sympathy," "Nihon Hioron."
HOUSEHOLD SCIENCE:—The Two questions on the last Number. (Sanka Seki).
Humourous:
NOTES AND NEWS:
QUESTIONS AND ANSWERS.
CONCERNING WOMEN.
THE PRICES OF ARTICLES.

第二百五十九號目次

社説　女學校長及女學生の父兄諸君に告ぐ
雜録　ウイーアム、ステッド氏を訪ふ(みれ子)極めて簡易なる習字法(みどり)古しへの花見(もみち)婦人議會傍聽○養育院世話掛瓜生岩女史を訪ふ(生野ふみ子)○獨逸婦人の實情(三好退藏)
文學　和歌數首(東京案山子の屋社中)○(花月草紙)
小説　淨雲胸第十回(雲峯子)
批評　二人むく助(撫象子)○新躰梅花詩集(雲峯子)○同情同憐○日本評論○
家政　前號の問二つに對して(山下石翁)○ホーム議案
隨感　西郷南洲先生(しのぶ)
笑草　西洋料理
寄書　教育上の僞善續國論を讀む(川合信水)○歌(立花寛篤)
時事　條約改正○官省の改革○櫻は咲きぬ○女學生○不景氣○總理伯○板垣君○殖民○米國に於ける日本女學生○外國婦人の慈善
問答
女報
週報
物價

(1.) *Since the 17th year of Meiji, female graduates of the Tokyo Medical School have recieved degrees and sucessfully passed the Public Examination which permits them to practise medicine. In Meiji 17th, there was one graduate; in meiji 18th, three graduates; Meiji 19th, three graduates; Meiji 20th, eight graduates; Meiji 21th, three graduates; Meiji 22th, seventeen graduates; Meiji 23th, seven graduates; Total forty-six graduates.*

(2.) *Efforts are being made for the education of the Shin heimin. or lowest class formerly known as eta Two ladies, Misses Mr. Cully and Parker, are especially zealous in this good work. In Asakusa Ku Danzaimonchō, they have started a free primary school for girls of this class.*

(3.) *In order that work may be more systematically carried on, the Benevolent Society of Tokyo have engaged Uriyu Iwa San, who has been twenty years interested in charitable work in Aizu, Fukushima Ken, to superintend the work of looking after the aged poor, and children, who have no natural guardians.*

(4.) *A general statement of the Kinergarten work in Tōkyō is as follows:—*

In Kojimachi ku. Public Schools, three; Teachers employed, thirteen; No. of pupils.—boys, 29; girls, 102. Private Schools, three: teachers employed, six; No. of pupils,—boys, 34; girls 34.

In Nihon Bashi ku:—Private schools, two; teachers employed, five; No. of pupils,—boys, 61; girls, 64.

In Kyobashi ku:—Public Schools, one; teachers employed, four; No. of pupils,—boys, 82; girls, 41.

In Shiba ku:—Private Schools, two; teachers employed,—eight; No. of pupils,—boys, 76; girls, 43.

In Asakusa ku:—Public Schools, one; teachers employed, one; No. of pupils:—boys, 18; girls, 18. Private Schools, one; teachers employed, one; No. of pupils,—boys, 14; girls, 16.

In Yochiya:—Private Schools, one; teachers employed, three; No. of pupils,—boys, 40; girls, 12.

In Ushigome ku:—Public Schools, one; teachers employed, three; No. of pupils,—boys, 46; girls, 25. Private Schools, two; teachers employed, eight; No. of pupils,—boys, 34; girls, 40.

In Koishikawa ku:—Private Schools, one; teachers employed, one; No. of pupils,—boys, 30; girls, 19.

In Hongo ku:—Public, one; teachers employed, 2; No. of pupils,—boys, 31; girls, 24. Private Schools, one; teachers employed: two; No. of pupils,—boys, 17; girls, 11.

In Shitaya ku:—Public school, one; teachers employed, two; No. of pupils,—boys 35; girls, 24.

In Asakusa ku:—Public School, one; teachers employed, two; No. of pupils,—boys, 51; girls, 80.

In Honjo ku:—Public Schools, two; teachers, eight; No. of pupils,—boys, 69; girls, 40.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百五十九號 明治二十四年四月四日發兌

社説

各女學校の校長。並に、各女學生の父兄に告げ參らす。（上篇）

（一章） 流行に惑ふヿ勿れ

波の寄てはまた反すヿの如く、春の來りてはまた去るヿの如く、世の万事は、一去一來して常に定まりなきものなる哉。斯て往くときは往き過ぐるほどに去り、來る時は來過ぎる程に寄せ、其度合に適當の斟辨を得ず。たとへば張詰めたる暴馬が、走り出して容易すく止まるヿ能はざるが如し。之を反動の勢ほひと稱ふ。唯り識者は、巧みに其中庸を得んヿを心掛け、手綱を確と握る。

女子教育の一進一退を察するに、總て此の道行を外れず、近ごろ數年間の變動は、悉とく此の道理に隨がふヿを經驗したり。明治十七八年の頃ほひより、女學界英學の熱、四十度以上に騰り、人々宛がら狂へるが如し。廿一二年の間だより、保守の勢ほひ打出で、西洋風の教育次第に引退ぞき、去年の夏以后は、女學生、針箱茶室などの內に立籠もるの躰たらく、いと憫れに見えしが、議會開ち、議員諸公田舍に歸り、都の風すみ〳〵迄で吹到るに及んで、嚮きの西洋風再たび捲き返らんとするの空合とありぬ。

潮ほの滿干につれて、浮べる木の葉の寄せ亦た離るゝは致し方なく、春の一去一來に隨がつて、花の咲ひ亦た萎れて行くは詮方なきヿと斷念す。左れど、愛すべき我兒を、命短かき春の花に比へ、輕々しき波間の木の葉に同じとして、たゞ反動のもむがまに〳〵打任かするは、何如にも情けなき振舞にはあらずや。我兒を世の流行に托して、生殺與奪を其心の儘にせよと放任し、或時は之を日本人の如くにし、或時は之を西洋人の如くにし、又或時は之を合の子の如くにし、斷えて是と云ふ見識を、其教育の上に定め置かざるは、豈に父兄の仁と云ふヿを得べけんや。

教育を「お飾り」の爲にするは、宜しからず。父兄が、其男の兒を教育するに當りては、可なり此理りを承知し、「學問は役に立ねば効なし、先づ以て立身出世の用意をせよ」と、深く戒

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

しむることあり。其子弟を學校に送るに際し、常に此の覺悟を懷くと見えぬ。左れど、其娘妹を敎育するに當りては、斷然志ざす所ろを別にし、女子は只だ「世間並」の事を心得置けば可なり、と言ふ。所云る「世間並」とは、世間の流行に隨がふの義にして、必らずしも其學ぶ所ろを役に立んとするの所存にはあらず。否な、役に立てたしとは思ふと雖ど、所謂る其役に立ことは「お飾り」の爲の役にして、旨と實用を希がふには非ず。此故に、女子の敎育は本來「お飾り」の爲にすることを多しとなす、たとへば、江戸の娘は三味線を習ひ、九州の娘は歌を詠み、西京の娘は舞を覺ゆることを大切となせしに似たり。之れ其土地々々に於ける女のたしなみにして、世間並の列に入らんとする娘に欠く可からざるの藝たりしがゆえのみ。而して其藝の實用を問へば、左して是と云ふ目當のあるにもあらず、只だ「流行り」あればなり。あゝ、流行、流行の勢ほひは、女子の一生を半ば奪ふ、尊とむべき人世は過半之が爲めに空しく了らんとせり。

扨は、英學の流行する頃ほひは、英學を娘に敎へんことを欲し、古し風の評判よき時勢は、古し風に娘を敎へんことを欲す、たえて定見なきは則はち大いなる所存ある所以にして、父兄は其娘妹をたゞ流行の愛子と爲さまく欲す。而して「女子敎育の精神は此にあり」とは言ふ也。

如此き意見に據て考ふれば、たとひ英學を習ひたる女學生が家政の事に暗しと云ふとも、之を責ること能はず、何となれば、英學を覺えて其お飾りとせば、目的すでに足るがゆえなり。山に獵して魚を漁どらんと欲するは、そも〳〵難し。若し實用を旨として娘妹を敎育せんことを欲すれば、先づ流行の奴となること勿れ。人は世間に住ふ、全たく世間を離れて之に無頓着なること能はず。幾分か流行に連れらるゝは、止みがたきの數なりとす。左れど先づ實用を主とし、實用の心掛十分にして、而して后ち流行に隨がふべし、流行に全心を捧げて實際に身の事を思はざるは、内に食はずして外のみを飾るが如し、錦を着ると雖ども、暫らくにして餓死す。

（二章）　眞誠の女子敎育

左れば、餘り西洋風に走るも宜しからず、餘り古し風に走るも亦宜しからず、當に今の日本風なるべし。今の日本風とは、今の開化したる日本婦人たるに適するの風を謂ふ。即はち、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

立憲政治の下に立ち、外國交際の間に入りたる、日本現今の良妻賢母として、能く良人を助け、子を敎へ、一家を治め、而して內外の交際を圓滑にするに足るの器量を備ふることを要とす。一言にて云はゞ、今の日本の良妻賢母たることを大切となす。故に、全く西洋婦人の如くなりとも、今の日本の良妻賢母たること能はず、昔しの日本婦人の如くなりとも、今の日本の良妻賢母たること能はず、今の日本婦人は、今の日本の良妻賢母たらずんばある可らず。

扨て、如何にして良妻たり又賢母たることを得べきかと云ふに、妻としては、外に働らく所ろの良人を能く內に助くることを要す、母としては、追々育つ所ろの愛子を十分完全に敎育するに堪ゆることを要す。

所謂る、良人を助くることは、只だ、之に甘き料理を供え、暖かき着物を用意するのみの謂にあらず。かゝることは婢にても能く爲すべし。左りとて、之が傍らに侍べり、其の機嫌を迎へ、之が樂しみの思ひ物となり、良人鬱するときは酒をすゝめ、良人疲るゝ時は腰をもみ、良人怒る時はおろ〱と泣き、只だ良人の肉を喜ばせ、其外形を慰さむるのみの謂にはあらず。かゝることは、妾と云ふ卑しき人の勉めて爲さんと欲する所ろなり。所云る、賢妻の內助とは、他の万人の女性が決して爲すことを得ざる助けを良人に呈し、良人の身の半身となりて、心之に隨がひ、良人の心の半心となりて、身之に傍ひ、其勞れの源を醫やし、其悲しみの元を慰さめ、啻に肩をもみ涙を拭ふのみならず、併せて其中心の苦を濟ふの同情即はち是れなり。同情は苦を減じ、樂しみを增す。賢妻は良人の同情者たるべき者なり。而して、外に出づる良人に同情を表せんことを欲せば、妻は平素外の景勢を心得置かずんばある可らず。近火に心を痛めて憂ひ歸りたる良人の爲めに、家に琴を彈ずるとも、良人の心を慰さむるに足らず、先づ窓を開きて火事を視、火の手の模樣を知らんことを要す。如此く、苦樂の種を外界にて荷ひ、之を荷ふて內に歸る良人に同情を表せんとを欲せば、妻は多少外界の模樣を知り居らずんば不可なり。故に、今の內助者は、亦た外の有樣を承知することを要む。之が爲には、政治學、社會學、經濟學、の大躰と、現今の時事を味ひ知ることを得るの智識とを、備ふることを要す。

又た、子を育つるとは、只だ之に乳を飲ませ、着物を着せ、

泣かぬやうにあやし、怪我せぬやうに見とり、病氣の出でぬやうに氣を付くるのみの謂に非ず、かゝることは、婦にても、老母にても能く爲すべし。今の母たらんものが、其子を育つるは、其子を今の日本人たるに適するほどに成人せしめずんばある可らず。子供は苗の如し、育て樣にて、大きくも、小さくも、直くも、曲りても育つべし。子供は鏡の如し、教ゆる人によりて、或は正しきを映し、或は惡しきを映し、映りたる影を長久なへに身に所有すべし。而して、何れも其初めを大切とするがゆえに、幼稚園の保姆よりも、學校の教師よりも家庭に置ける母の教育を最とも大切なりとす。母は自からの教師にして、亦教師中の重役なり、之が爲に、母は教育學、心理學、倫理學、などを十分に承知せずんばある可らず。之を知らずして、良母たらん事を欲するは、耕す術を知らずして、種を育てんと欲するに異ならず。

故に、今の賢妻良母たらんとするものは、必らずや、教育學、心理學、倫理學、經濟學、社會學、政治學、などの一汎を知ることを要す。其他、裁縫、家政、讀書、算盤、畫、地理、歷史、並びに諸々の理學を知ることを要するは言ふ迄もなし。

三章　英學用なし

かゝる必要の學科を教ゆることを以て、今の女子教育中の第一要點となす。而して、今日普通の娘が女學校に勉學することを得る年限は、餘り多からざるを常とすれば、並々の女子教育は、小學全科卒業の後ち、大抵三年にて普通女學を終ることを得る程に仕立てざるを得ず。たゞ理論上、年限を多くするとも、普通の女生其終り迄で在學せず、實際早く退校して半途に人に嫁するに至らば、それ將た是を何如にせん。故に、今の女子普通教育は、小學卒業後三年とするを好程度となす。扨て右三年の間だに、彼の諸々の必要なる學科を教へんことを希ふ時は、一切教科書を日本文にせでは適ふ可らず。若し英書を之が爲めに用ひんとせば、其の英書を讀み得る迄に、少なくとも五六年の勉學を要す。五六年勉學の后ち初めて此諸々の學科を十分に學ばせんとて、先づ其仕度のみを催ふすと雖ども、仕度未だ了らずして、早く既に退校し、何等の實用學も知らで、騾馬人に嫁せば、お飾りの衣も、用にはたゝず、何を以て能く賢妻良母たるに適せんや。故に、女子の普通學校に於ては、殆んど全く英學を廢することを可とす。英學の用なきに非らず、之を用立る迄に及ぶの暇なきがゆえ也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

四章　英學の用

但だ夫れ高等なる女學を修めんと欲する者の爲には、頗ぶる外國語を要す。故に高等の女學校には別に英學の專修科を置き、高等女學の志しある人に、就て學ぶことを得せしむ。左れど、彼の普通の女學校に於ては、殆んど全く英學の用あらざるなり。もし有とせば、文明婦人一と通りの心掛として、英字の名札を讀み、羅馬字のつゞりを讀み、ノー、スモーキンの字を辨ずるほどの學力あれば足れり。

凡そ教育には、何等かの役に立んとて稽古するを、甚はだしく惡む。世上の万事、之を學びて何等かの役に立たぬはなし、何等かの役に立つとて學ばゝ、何事をも學ばざるを得ず。教育には、尤とも少なき時間に、成べく多くの益を收むることを要とし、且つ直接實際の益を最初にして、迂濶間接の益を后にす。英書を讀み、英語を談ずるは、都合よきには相違なし、左れど、先づ直接實際の學問を學びたる后にあらでは、此等間接のたしなみを學ぶの暇まある可らず。故に普通女學には英學を要せず。英學は、普通女學畢りたる人、若くは元來普通女學以上を學ばんとする人のみの學ぶべき者也。

雜録

ウイリアム、ステッド氏を訪ふ

曩の日は、パル、マル、ブッゼット雜誌の記者たり、今は批評の批評の主筆たり、奇想妙思、潮の湧が如く、生れ乍ら、新聞記者の資格を稟有するに似るは、英人ステッド氏なるべし。彼が果然斷決して、英國上流社會の淫風を暴露したるときは、全世界を震動して姦淫の罪惡を酷罵したり。之が爲に牢に入、暫くして出獄せるとき、英國の貴婦人金嚢を捧て之を慰待しつるは、能吾等女性の志を代表すと云べし。猛き社會改良者、勇しき直筆家として、慕きこと一日に非ず。今ユニヲン、シグナル雜誌の記者に伴ひて、之を其倫敦に訪問せり。左に其あらましの記事を掲ぐ。　　　　みれ子

ステッド氏の家庭は最も平和と快樂との充つる所、知者朋友間の訪問者をして自ら快樂なることを覺えしむ。ウヰムブレドンの停車場より氏の居宅に到の道路、純然田舍の風景にして、甚だ愛すべし。其が家の構造宏大にして、居室多く、和樂優

くゝたるの活氣、内に充溢する心地せり。氏の妻なる人、余(訪問者)を丁寧に迎へ、厚待優遇せられし樣、實に余の心魂をして愉快ならしめ「こは眞に幸福なる家庭ある哉」と心窃かに嘆稱せしめたり。五人の小兒と少女、何れも樂しげなり。長子年紀十有六、父の傍らにあつて其仕事を助け居たり。幼者未だ赤兒にして、美貌長髮可愛さ云はんかたなし。余が入りて間もなく、ステッド氏小兒を伴ふて余の傍らに坐しぬ。氏の如きは、世界萬民の爲め犧牲獻身の勞力を爲し、眞誠の幸福に浴する今代の勳爵士なるかな。

過去の事業、談話

食堂にステッド氏全身の畫像あり、其額と眼色に顯はるゝ、沈憂深鬱の樣、氏が平常の快樂げなるに似ず。然る所以のものは、是れ氏が數年前パル、マル、ブゼット新聞の記者たりし時、法律に觸れ、千鬼萬魔群り集ふ奈落(獄屋)の底に悲哀の歲月を送られし頃、氏が法庭に立つの容姿を寫せしものなれば也。こは其時、ブゼット新聞社より寄贈せし所なり。其畫上に顯はるゝ、鬱憂の容貌無爲の如く見ゆれども、暗黑場裏の罪悪を摘發し朝野の慈善家をして幾多の改革を爲さしめたるの力は、實に此顏色の内にあり、之を氏の過去に於ける事業の一となす。

時間の過る内に食事も終り、談話は偉人の事に移りぬ。將軍ブース氏、ジョセフィン、バットレル夫人、其の他現今人民の爲め犧牲的の事業を爲す人につきて話せり。ステッド氏は人類は次第に善を爲すに進步し、就中婦人の爲めに盡すの傾向ありと確信し、四海同胞の實必らず擧るの時來るとを確信す。氏は之を思ひ、之を信じ、之が爲めに計畫すと云ふ。氏が發兌する所の「レヴヰウ、ヲヴ、レヴヰウ」雜誌の如き、其發兌高人の預想外にして、發兌後一年にして、毎號十二万五千部を印刷するに至れりとぞ。余は其雜誌を見るに、只に珍事奇聞の多きのみならず、文學上、宗教上、有益有用の記事甚だ多し。先きに法律に觸れ、罰に當りし時、人皆思へり、氏の事業は既に全敗地に塗れたりと。而して今日此偉業を爲さんとは、嗚呼夢想だもせざりき。彼雜誌は只に文學、宗教等に於て有功なるに止らず、實に靈界の版圖を擴張する一大武器たるなり、人間に依て上帝の力の顯はるゝものあり、靈界の爲めに賀せざる可けんや。

ステッド氏の奮勵

氏は熱心事業に奮勵勤勉するの人なり、時に或は勉めて半

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夜に至り、或は三時頃に及び、又夜を徹する事もありと云ふ。氏の居室は廣大にして兩側に本箱あり、窻の近くに寢臺あり、氏が疲勞を覺ゆる時は、此に坐して窻外に花園を眺め、休息する所なり。煖室爐の近傍には、美畫珍器を集む、此は是氏が彼の大事業を爲すの本營なり。家庭自ら神聖にして、氏と其妻子と、和樂團欒するさま、他に見るだに心地よし。されど、氏が口づから氏の大事業は全く上帝の力に依り、氏の思想は常に上帝と共にあり、之と離るゝ能はずと云ふを聞きし時は、更らに快よかりき。

極めて簡易なる習字法

みどり

丹州の人岡崎起作氏は、多年師範校中學校などの敎授たり。其間だ、習字法を敎ゆるとの甚だ容易からぬに慨して、密かに專心工夫し、濶然一新法を發明して之を試み敎ゆるに、尋常の女生は、行草の文字すら二三ヶ月にして大躰の筆法を學び了ると云へり。其新法は、口傳手工に屬し、帋筆にて書き盡すべきにあらねど、大要、一と云へる文字を能く敎へ、夫を万字に及ぼして自から推敲工夫せしむるの法なり。楷書は申すに及ばず、行草にても此筆法にて敎ゆるに些さかも不便を感ぜず。先づ、一の字を横に引き、次に竪に引き、斜に引き、倒さまに引き、分つて書き、併せて書くの類の歩みを重ね、運筆熟するにつれて、久しからず能筆となるの方法たるよし。且つ、古への名家の字を習ひ、其筆法に適ふや否やを自から承知するに、書きたる文字を數多の一の字に分ち、之を帋の裏よりすかし見て、出來の巧拙を考ふるなどの工夫もあり。思付き、奇にして而も學理に適ない、甚だ面白く覺ゆ。さて、氏は、是迄九六人の女生に此新法を用ひて平がなを敎へ、皆な二三ヶ月にして能書とありしとを經驗したれど、尙一層之を實知せんとて、來四月の新學期より、明治女學校に於て試みに之を敎へ、其結果いよ〳〵宜しくば、初めて天下に廣ろく告げ、女性習字の便法に供へんとを欲すと云ふ。

古しへの花見

もみぢ

千早振あらひと神の神たれば、花も齡に伸にける哉。と詠じけん、櫻町の中納言が、古しへ吉野の山を戀いつゝ町に櫻を植ゑらべ、其内に屋をたて、住たまひしてふ、花を樂しむの

春とはなれり。紫一本と云ふ書に云く、東叡山黒門より仁王門迄の並木の櫻の木の下に花見衆なし、松山のうち清水のうしろに幕はしらかして見る人多し、幕の多き時は三百餘あり、少なきときは二百あまりあり、此外に連だちたる女房の上着の小袖、男の羽織を辨當かゝげたる細引にとほして櫻の木にゆひつけ、假の幕にして毛氈花むしろしきて酒のむ、鳴物はならず小歌淨瑠璃踊仕舞はとがむるとなし、本町通り町を始め、有德なるも左なきも、町かたにて女房方、正月の小袖と云ふは仕立ず、花見小袖とて成ほど手をこめ、結構にだてなる好ずきにしたるを着て出るあり、花よりは倘ほ見事なり、花の頃よりは空くもりて、大方晝過頃より雨ふる、然れども傘をもさゝず、

　好き小袖をすきとぬらして歸る

を遊山にも、又手柄にもするなりと云ふ、天和年中の花見左もありけんと想像し、何となく面白き心地す。雲の上の大宮人はいとまあるや否や、櫻かざして今日も暮し玉ふと見奉まつれど、近頃の地震にて安き御心根何如あらんと掛念せらる。左れど、春の一時は乍ち過て反らず、花見てくらす時の少なければ、花さかる頃は、天の恵みを壽ほぎて樂しむべし。

婦人議會傍聽

日本は英國にも優れり

我國の女子は幸ひなる哉、國會開設の始めより傍聽權を得るに至らんとは、こは日本人たる吾人の喜びに止らず、海波遙かなる異國人も祝して云へりし事あり。此に記さん。

吾人（ウーマンス、ヘラルド記者）は思ふ、我英國々會に於ては未だ女子に傍聽を許せし事非ずと。されば今日女子の傍聽席カナ網の后ろにあるは、倘未だ公然たるものに非ず。故に何かの理由に依り、議長が傍聽人に退塲を命ずるに當り、女子をも退くるの權利を有せざるの事實に徵して明かなり、蓋し公然許したる者に非るが故に、傍聽席なしと見做せばなり。今を距る事五十三年の昔、灰燼となりし議事堂に於て、婦人傍聽席なるものなかりしを以て、是非共傍聽せんと望し婦人は議塲の屋根に上り、窓より見下す可りしなり。斯して傍聽せしもの今倘生存す。千八百三十二年の改革案可決せし後、度々婦人傍聽席を設けん事を建白せり。それより四年の後、婦人に傍聽

を許すの動議、々會に起り、九十人に對す百卅二人の多數にて可決せり。就ては傍聽席建築費四百ポンドを要する旨政府に申出でしに、當局者は「高議淑徳の女子を議事堂に臨ましむるの必要なし」との故を以て建築費を給せざりき。此に於て議長が之に對するの意見如何を問ひしに、彼れ曰く「我此件(婦人傍聽の事)につき熟々考ふるに、議場を整理せん爲め、禮式を守らん爲め、亦女子の爲めに影響せられざる爲め、女子に傍聽を許すは甚だ望ましからずと思ふ」と。議長が斯く答へしを以て、其可否を投票に問ひしに、二十八に對する四十二の多數にて更めて否決せり。斯て新議事堂建設せられし時、議會に問ふ事なく、即ち議會の許可なくして、婦人傍聽席を置けり。故に今日あるものは、公然議事堂内に置かれしものと云ふ可からず、然るに今ま日本にては、女子に傍聽を許すの議公けに可決せられたり。彼等が古來の習慣を破り、改め難きの弊風を速かに改革せしは、實に彼等の爲め、非常に賀すべき事なるべし、云々。

「カーライル」の閑居。枯木悄立、青草鬱茂、カムリー、バンクに依然存する文豪の遺宅は、巧に圖して、前號の女學雜誌第百十五葉の下段、無事無爲の文中に在り。

獨逸婦人の實情

三好退藏君

(二) 婚姻。婦人會。看病婦。演説

私しが聞く所ろによれば、獨逸の娘は、外へ所々出るとは出ますが、決して一人では出ません、必らず其母がついて行くか、或は親屬朋友の年取つた女の人が一緒に行くかで、中等以上の人になつて若ひ女を一人踊りなどのある場所にやる事は決してしないと云ふ事で御坐り升。夫れから、婚姻を未だしない十五六から二十二三位迄の女子は、餘程着物が粗末の樣に思はれました。婚姻をした所の人は立派にして居りますが、未婚の人はサッパリして、織物も粗末の樣である。勿論之も聞て見ると、決してそう一々區別すると云ふじやないが、見た處では、同じ家族でも、婚禮をした人は、絹の着物を着て居るが、娘の未婚の人は毛の着物、或は、木綿、又はサラサなどの着物を着て居る樣であります。私が是を考へると、子供の未婚の時は世の中に出んものである、婚姻して始めて一人前の人間である、一人前の女となるのだから、家の道具も自由自在に、金もつかへるけれども、婚姻をされない娘には、親から夫れだけ手當をせんものであらふと思ふ。日本

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

と違ふ處は、日本は子供の飾りをするに、親の物を欠いてもするが、日本の有樣の樣である、是丈違ふ處と思ひます。夫れから此子供、即ち十五六の女が、婚姻した大人に對するは、餘程丁寧と思ひます。夫より年を取た女は、或は看病婦學校と云ふ如きものがあつて、慈善の考から來るものでありませうが、如何なる高貴の人でも、貧民でも共に看病婦となり、病人の介抱をする事に從事するが、最もあちらで宜しひ事にして居るそうであります。夫も集りて寄宿する處もあり、又一人〳〵で働く處もあります。私が知て居る人でも、二十五人許と聞たが、此看病婦が寄宿なして一の集りをして居る處の舍長は、伯爵婦人で、立派な人であるが、何處から病人の介抱に呼ばれても、心よく行きて能く介抱をなし、其家の爲に働いてやる。是もやはり貴族の女の人でありますが、支那の公使館に呼ばれ、支那人の介抱をした事がある。まことに、其時には困たけれども、其病人が實に氣の毒な難義な病氣であるから、出來るだけの力を盡し、遂に國に歸る世話をしたと云ふ話がありました。此事柄はあちらでも餘程慈善の最もなる者として、人もやかましく云て居りました。立派な人でも此に從事する者と見えます。夫からこちらにも追々くわだてがあるが婦人慈善會がありました。やはり物品を賣て、其所得を慈善の目的に供するので御坐り升。コーいふ會にも招かれて行ましたが、コチラでも前に慈善會に行た事がありましたが、コチラは品が高價い樣に思ひました、アチラの慈善會では別に高くない、隨分他の處で見るよりも私が感じては安い樣に思ひました。世話をする仕方は、婦人が面にあり、男子が之れを補助して居る樣と思ひました。但だ日本と違ふ處は、價の高低の事と思ひました。其次には、婦人會と云ふものが澤山ありまして、種々の目的を以て起るのでありませう、私も度々招かれ行て見ましたが、其婦人が主になりて、招きし時は、丁寧に凡ての事によく周旋する婦人が、つき居るけれども、其うちにて男子も働て助け居る樣であります。けれども不思議な事には、婦人は一寸もしやべりません、其會の事についていろ〳〵働きもし賛成もして居るが、婦人が立て衆人に向て談をする事などは、曾て聞かん。此事について、尋ねて見ましたが、獨逸では、婦人許りなれば婦人にしやべる事をゆるすが、併しながら男子がまじり居る時には、婦人の演説

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

する事をゆるさん。皆さんも御聞にもあり、また見もなされましたらふが、彼のアメリカや、イギリスの婦人は、公衆に向て演說をする事がありますそうです。獨逸は、全く夫れに異なる處であります。

金儲けに八のしなあり

一。虛傲者の覺悟は　金を儲け　之を虛飾するにあり、
二。守錢奴の覺悟は　金を儲け　之を貯蓄するにあり、
三。慈善家の覺悟は　金を儲け　之を分與ふるにあり、
四。放蕩家の覺悟は　金を儲け　之を消費するにあり、
五。高利貸の覺悟は　金を儲け　之を貸與するにあり、
六。魯鈍者の覺悟は　金を儲け　之を儲るに終るなり、
七。怜悧者の覺悟は　金を儲け　之を惠與するにあり、
八。基督信徒は自ら　金となり　社會の爲めに活動す。

●正誤　前號の雜錄、劉玄德至誠の涙と題する文の六行目「徐庶に別れし時」は、「徐庶に別るゝ時」の誤、同十八行目「百敗して猶笑ふ」は、「大敗して猶笑ふ」の誤。

瓜生岩女史を訪ふ

東京市養育院世話掛　生野ふみ子

去月廿九日、東京養育院にて聘したる、瓜生岩女史、會津より來着せりと聞き、其三十一日女史を、本所長岡町ある、養育院に訪ふ。女史は年齢六十五歳、丈は餘り高からぬ方なれども、中肉にて、骨格もいと丈夫氣なり、なかなか達者らしき人と見受けられぬ。其柔和なる容貌は、自然なるものから、之れを見て、今日までに、幾多の憐れなる貧兒等が、いかに此人によりて慰められけむなど、思ひ遣らるゝも尊し。其風采の質樸なるは、洵に愛すべく慕ふべし、しかして又其應接振りの十二分に謙りたるは、是さへ多年貧兒の爲に泣き、貧兒の爲に憐みを乞はれたるの結果かと、いと床しき心地せらる。

女史が始めて貧兒撫育の事に着手せしは戊辰の冬なりといふ。此時、女史は會津の近在に在りしに、會津戰亂の際み、父を討たれ、母に別れたる憐れなる家中の子女等、往々所在の農民に養れて、無智無識の者と成り果んとするを見痛惜に堪へず、爭で彼子供等を集めて、相等の學文を敎

へ、侍の子として、恥しからぬものになさばやと思ひ立たるに、丁度其處へ平野某といへる會津の儒臣、手疵を負ひて落ち來りしと聞き、村人に賴みて其人を家に負ひ來らせ、夫より手疵療養の世話などしつ、全快の后其人を以て、彼憐れむべき孤兒等の敎師とし、其近傍に學校めきたるものを拵らへたるぞ、是女史が幼兒の爲に盡したるの始めなりとぞ。又女史は、福島地方に概して墮胎の風習あるを憂ひ、爭で此慘酷ある厭ふべき所行を止めばやと思ひ、種々思考をめぐらしたるが、全躰其墮胎の原因たる、家貧ふして多くの子を養育する能はざる者等が、續々子供の出來る時は、其父母舅姑に面目なしなど思ひ、又其父母舅姑も、澤山孫の出來る時は、己が觀音參りする賽錢にも事を缺くに至るとて、痛く若夫婦を罵るを以て、愚民の常、事情止むを得ず、遂にかゝる所行に及ぶを推知し、先づ其老人の心を改めさせではと、其近邊に名ある老和尚を賴でん、凡そ七回ほど老人を集めて說敎させ、專ら墮胎の大罪なる事を諭せしに、老人等も大いに其非を悔ひ、漸次墮胎の弊風を改むる傾きには至りたるが、一方に於て其子女を養育し遣らでは、彼等も困る事と思ひ、其事を彼和尚に談じたるに、和尚其頃の福島縣令を說き、遂に福島に一の養育塲を設くることとなり、女史は招かれて其世話掛りとなりしが、其后縣令は去り、和尚は死し、其養育塲なるものは、全く女史のものゝ如くなりしかば、其后は女史一人にて、專ら其養育に從事し居たるに、今回當市へ招かるゝ事となりたるなりとぞ。又女史は一昨年中、

飴糖を以て食料に充つることを發明せり

とて、飴糖にて製したる菓子パン、數個を示れぬ。之を味ふに、余程渋く、うどん粉を以て製したる菓子パンに左迄劣たりとも覺へず。全躰飴糖は古來食用に充べからざるものと思ひ、如何ある貧民と雖も之を顧ず、肥料にのみなし來しを、女史一日貧民等が、大根葉を爭ひ食し、其だに得ずして饑に泣ものあるを實見し、憫然の情に堪ず、爭で廉なるものにて、彼等の食料に充べきものなきかと苦慮したる末、遂に飴糖に思ひ及ぼし、種々實驗の末、之を挽て粉となし、少の温飩粉を交て、パン其他菓子などに製することを發明したるなりと。而て飴糖五升の價は纔に米一升の價に過ざるを以て、貧民の饑を支るには、至極適當の料なりと說れたり。

（未完）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

文學

池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

春雨

、、花にねむる（醉ふ蝴）蝶の翅のしめやかになれるを見れば春雨ぞ降　　尾崎宮郎

評。しめやかさは靜なる事也ねふる蝶ならは固よりしつかなるべし　　八千代

、春雨は降るともわかぬ空なれど岩ほのこけ（柳の糸）につゆ結ふ（そへる）なり　　日高みつ子

、ふる里のあさぢが原（庭）に今日も亦つれ／＼と降る春の雨かな　　八千代

柳

、、高瀬川ふち（岸）の柳も打けぶり下ゆく舟の音のみぞする　　前島睦子

評。訂正にて川春雨さすべし

、ほの／＼と（春風に）かすみ流るゝ川（山）ぞゑの岸の柳に夕風ぞふく（のうちなびく見ゆ）　　仝

評。ほの／＼さは霞の景情にあらず霧や曙の景を示す辭也霞のテヽストは支那人も歐米人も識らず唯霧や雨霧さ同視してあるべし此論餘ながければ爰に畧す

、、青（うち）柳のなびく姿は（柳の糸は）ほの見えて（なから）太田の淀は春めきにけり（にかすみたなびく）　　江間きよ子

評。春めくの詞は春ならぬ時か春殊未たさびしき折にいふべき也

、、もえいづる岸（小ざめふる汀）の柳も打けぶり池のかゞみ（鏡の）もくもる頃（春）かな

花月の遊　　樂翁公

けふはいと長閑あり、いでや隅田かはらの、花みんと、小船に乘て行きたるが花見んとたち出るかち人のさま、げにみやこのみやびを盡せり。樣々の、心々に打群れて行く、女房なども何か口たゝきつゝ、心そらにあるくもあり。馬走せて、花をも目に掛けず、いとはしそうに行もあり。やとなき人にや、鞍うちかとみて、つゝましげにゆく女のあり。あるは木かげにて、はや瓢かたむけ、何やらんやたて出し、書いつけのしよりして、花の枝に付けて、われは顏なる風情なるもあり。けふは實にはれ／＼晴れて、一天に雲なく、富士も筑波も手にとる計りに見へたれど、またそれを打ながむる人もなし。況して、斯く晴たる日は、とくに雨風のあるなどいふとは、露思ふものも、あらしかし。この長閑ある御代の、春の御惠にぞ、よく心ゆたかに樂しみ遊びて、かへさ忘るゝ計りしても、何の煩ひ、憂ひもなきに、此の花もむかしより、盡ぬ御惠深き露に、生ひそひしとやらんもきけ。さ思ふ人もありやなしやと見れど、王の民の心とや、かゝる今日の惠をば、思ひ寄らず、いつも斯く空晴るゝものと計も、思はぬ兆おほからんなど思ひくして四方をふと打見れば、筑波根のあたり、いと細く、ひらめきたる雲こそありけれ。この雲よ、世にいふ、はやてなどいふものありけり。

（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小說

浮雲胸

第十回　不安心

雲峯子

西洋風の流行恰も長江堤を決して出るに似たり、貴となく、賤となく賢となく愚となく一に西洋をのみ慕ひ、舶來品をのみ尊ぶに至れり、されば其愛子をして急に洋行せしむる人あり、亦其令孃をして遽かに英語を學ばしむるあり、甚しきに至つては洋人を雇ふて舞踏の敎師となし、西洋交際法研究に書物を購ふも少なからず、紳士は日々藥を用ひて毛髮を縮れしめんと欲し、鬚の赤くならんことを望み、果ては身丈を高くせんとて底厚き靴を穿ち、鼻を高くせんとて閑暇ある每に指にて握むに至れり、淑女は洋語に通ぜざれば交際場裏に入る能はず、從つて米國より新着の帽をと尋ね求むるあり、洋服の裁縫を橫濱居留地の外國仕立屋に托するあり、其談話するに當てや輕辯連調鶯の囀るが如く、谷川の岩に咽が如く、Sの音は低くして笛の如くあらん事をまで學ばんと欲せり、昔しコロンブス米國を發見せし頃、歐人皆移住の事に狂し、且つ醉ひて西に〳〵と云はぬ人ぞなかりけるとか、我國當時の西洋熱はおさ〳〵彼の殖民熱にも劣じとこそ見えにけれ、如何なる故にかくはなりにけん。

流行する時とて甚だ奇妙に堪へざるは平常西洋嫌ひの人々すら洋狂西醉の徒と相携へて外國的の交際をつとむるに至ぬ、數十年の昔は夷狄なり、蠻人なりと洋人を賤みし天保時代の老翁すら今は尊敬の意を表するに至れり、保守の人、頑固の者すら斯く心の變じ來れる時なれば青年男女の西洋々々と云ふに至りしも至當の事なり。

なみ子は例の如く交際の爲めとて下谷の自宅を發し、車を走らして麻布某町に高宮子爵と云ふ人を訪ふ、こは今元老院議官なり、一女は今年正に十有八、容姿人に勝ると云ふにはあらねど、亦人に嫌はるゝこともなし、近來頻りに洋語洋風の勉強につとむるとぞ、されば每夜の如く彼處此處に打つゞく宴會、舞踏會等に臨席せぬと云ふ事なし、殊に音樂をよくし、音聲淸晥なれば英語の歌曲も巧みに謠ひ、をさ〳〵外人にも讓らぬとぞ、こは非常の才女なるが故なる可し、されど才女は輕薄に流れ易く、活潑は亂暴に陷り易し、今は西洋熱

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何處にも行き渡らぬ隅なく、從つて西洋風をわしざまに云ふ人とてはなし、さる故に高宮はま子は輕薄と云はるゝ事あく、天晴れ才女なりと稱せられ、亂暴(俗におてんば)と評せらるゝ代りに活潑ありとたゝへられぬ、世が世ならましかば斯る女子は賤しみ棄てらるべきに。

蛇の道は蛇の知る所、なみ子がはま子と知己になりけるも、他生の緣と云はゞ云へ、同情相知れるに因るか、今日は久しぶりにてなみ子が訪なひしとて、はま子は殊の外打よろこび頻りに優待するにぞ、なみ子は愈交際上の快樂を知り、何時立去らんともせず、兩人圓机を擁して何をか語り、語りては笑ふ、近づきて聞けば今しもなみ子の辭として「去る頃より如何でよき紹介を得て一度鹿鳴館の舞踏に臨ましく欲せしが方法なくて今日まで打過ぎぬ御身の御紹介を乞ふを得ば恐悦之に過ぎず」と辭を厚くして云ふ「そはいと易き事なり世に舞踏をわしざまに云ふ人あれど古來西洋にて行はれたる美風、惡しき云はれなし、彼是云ふは未だ舞踏の何たるを知らぬ人の言あり、敢て心頭にかくるに足らず、今宵は白石伯の自宅にて宴會あり、來る土曜日の夜例によつて鹿鳴館に内外の紳士淑女相集りて舞踏會を開かん、其夜御身と伴ふて出會せん、午後六時迄に妾の家まで來り給へ」とはま子の答ふるにぞなみ子はいとよろこびて「さらば其夜亦來らん、今日は尙訪所ふあれば立別れん」と云いて辭す、道すがら立寄る所は云はでもしるき演說會々員なる神田及び本鄉の友人なり訪ふ所に舞踏會の事を說き、共に臨會せん事をすゝめぬ。

上の好む所下の之に模するは理りあり、今や貴顯の人、高位の者舞踏也、宴會也、懇親會也、交際會也、相集り、相遊ぶの事頻りに盛なり、されば少しく官位の卑き者も我も〳〵と交際の事には心を用ゆ、なみ子の良人も未だ高官と云ふにあらねば交際費とて充分にあるにもあらず、無用の費途は成る可く絕たんとの主義なるよし、されどなみ子は頻りに西洋風を好みてこたびも是非に舞踏會に出でたき旨良人に語る、良人は品行正しくて、節儉の美風を習ひ知りし故平常の收入中幾分の貯蓄もなしけん、月々少々づゝ利金の收入もありと聞く、されど決して吝嗇など云ふ類にあらず、費す可きには喜びて費し、奢侈嬌恣を節して多少の貯蓄を爲すと云へば實に感ずべき人なり、なみ子は今日はま子の家を訪ひてより、

舞踏會に出でんとする望み愈強く、種々考案をめぐらせしが遂に妙案とて發見せず、果ては良人に縋り、今日高宮はま子を訪問せし時の事ども打語り、終りに「舞踏會は猥りに遊戲する所とな思ひ給ひそ、文明時代の女子に要する資格は大ひに此會塲にて養ひ得べきなり、そは女子の一家を整へ、良人を補佐するの點は交際の巧拙に依るもの多ければなり、殊に官吏の妻たるものは交際の道に長ずるを要す、條約改正の成ること、近きにあらん、內地雜居の日來らん、此時こそ眞に交際の必要現はるゝならめ、其時に至りて急に學ばんとするも難し、今日より心するに如かず」云々と、はま子の語りし所をそのまゝ良人に告ぐ、良人なる人そを聞て服せしと云ふにはなけれど、等しく是西洋熱流行中に居るの人、洋風を惡しとは夢更思はず、只無益の入費の嵩まん事を恐れ、懇ろに思ひ止るべき樣語りぬ、二人頻りに語り合ふ事止まず、結局は果して如何になりしか。

春風肌に快く、至る所に花咲き匂ひ、鳥舞ひ歌ふ、百万人中氣樂のもの少なからねば或は杖を曳て墨堤の花下に暴飮する醉客あり、遠くは小金井に花を見るあり、誠に郊行遊步の好時節、一年三百六十五日中、斯る時はあらじとぞ思はる、されば中等以下の人民は多く、都外に閑地を求めて平常の勞を慰む、されど貴顯高官の人、戶門の外に出る事稀なるは抑も如何なる故ぞ。

數日前春雨漸く晴れ、快晴の天氣打つゞく、都下の道路は黄塵涌くが如くにして行人爲めに惱むなるが、遊客閑人の他出往來には雨天より大いに宜し、今日は土曜日なり、午後五時頃より鹿鳴館を目ざして四方より集り來る人引きも切らず、馬車を下りて館に入る者、高貴なる人に非ずんば令孃若くは淑女なり、直ちに奧に入るあり、廊下を往復運動する人と談話を爲しつゝ彳むあり、未だ時早しとて三々伍々相携へて庭上を徘徊するあり、千差萬別なり、六時に近しと思しき頃、二人の淑女馬車にて來りぬ、こは即ちなみ子とはま子なり、過る日の約束に從ひ、兩人相伴ふて來りしなり、館に入れば人集りて雲の如し、はま子は先きに屢々臨會せし事ありければ知己友人少なからず、遇ふ人毎に挨拶して何か語る、然るになみ子は未だ知る人もなければ語るべき相手もなし、始めの程はナミ子が一人〳〵紹介し呉れしも數繁き人とて一々紹介

する事も得ならず、なみ子を顧もせず、なみ子は己が思ふままに人と交はりぬ。

六時頃館内の諸室悉く燈光輝き渡りて、何處も晝の如し、集りし人はや多くなりぬとて開會す、許多の人語り笑ふ聲、呼び騒ぐ音音樂に和し、亦歌謠ふ聲も聞ゑ、館内實に騒々擾々恰も熱湯の沸々たるが如し、斯る所に度々臨みし人多きが故に人皆いと快樂なるさまにて打さはぐ、墨堤の花、品海の月を見るより此俗界は彼等に一層愉快を與ふる事ならん、彼等は是に勝る快樂なきが如く思ふ、獨りなみ子は知己なく友なく異境に入りし心地して相共に樂まん人もなし、茫然として眺め居るのみ、時々洋人の語らんとする人あるも斯る所にて英語をもて會話せし事なければいと耻らひて赤面し、かへす言語も出ねば、洋人は打すてゝ去る、斯くて不愉快なる間に時も過ぎ、何時しか閉會となりぬ、なみ子は飄然として館を立出で、茫然立ちかへりぬ、歸途車上にて靜かに思へば心中安からず、安からねば苦憂烈し折角望し舞踏會にて不遇なりしかば大ひに失望し、落膽しぬ。

批評

二人くむ助

無象子

紅葉山人が著にして、少年文學の第二編となす。趣向は、アンダルセンがフェアリー、テールスに據れるなるべし。文章は常よりも平淡なり。童兒の讀みものとしては相應はしき文字と云ふべし。但し、馬を殺すすら既に心地よからず、人を川に投込むに至つては、不快きはまりなし、大斧を以て母が頭腦を打割るに至つては、讀もの悚然として戰栗せずんばあらず。之れ豈に少年の讀書たるに適するの趣向ならんや。况して、老母は故なく非命の死を遂げ、念佛の老翁は欺むかれて入水しいや果に、愚直なる椋助は投げられて死し、狡猾なる小椋助は三百五十金と唐錦の頭巾と、珊瑚の杖とを保ち、富有にして暮すべうあり。是れ素と少年に教ゆるに足るの教訓ならんや。左れど、何ほ是可なり、結末に至り、善人なりとも愚鈍は亡び、惡人ながら智者は榮ゆ、合點が參らば御學び候へと云ふに至ては、いよ〳〵不可なり、何ぞ愚鈍の二字に變るに愚慾の字を以てせざりけん、もし慾の故を以て

一身を終れりとせば、通編の文字、今少しは靈活し、少年に道を敎ふるの副補なきにあらざりしならん。

○新體梅花詩集　　　　雲峯子

新體詩の流行は端なく梅花道人をして其詩集を公にせしめたり、吾人は此詩集が直接に或は間接に我詩界に響影を及ぼすべきを信ず、故に此に吾人の所思を述べて評言を呈するも實に止むを得ざるなり。

詩人の資格　洒々磊々冷言淡笑の間に世を送るもの是眞の詩人か、我得て知らず、厚情博愛多感多血の人是眞の詩人か、我得て知らざるなり。只知る詩人多くは冷々若くは濃厚の極端にあるを、大躰より云へば西洋の詩人は濃情多愛なり、東洋の詩人は冷々談々なり、之に依て見れば彼兩性何れを備ふるも詩人は凡庸普通の人間ならざる事明けし。梅花氏は如何なる人ぞ。嘗て檜笠孤杖飄々として天下を横行せり、詩集中「出放題」と題する一篇こそ氏が人物の如何を證するあれ即ち「飮むべし、食ふべし、我等明日あるを知らざればなり」といふに近し、「今日の外、唯現在今日の外、明日も明後日もなきものを」と歌はれしなり。其他暴飮暴食を樂しみ厭世隱遁主義なるを見れば、氏は正しく東洋古來の詩人に似たる所ありと云ふ可し、不平亂酒を詩人の本領と云はゞ、梅花氏は其行爲人物等の點に於ては、大詩人と云ふ可し。

詩想　氏を詩人として見れば既に云へるが如し、宜なり、其詩想の東洋詩人に似たること。怪む勿れ酒、肉、飮、食等の字甚だ多きを。されど是數百千年以來詩人の常躰にして、今亦氏が斯くの如き詩想を有せらるゝは當然の事なり。然れども亦優美清潔の詩想篇中に多し、就中「靜御前」「春の舍主人」「靈魂」等の數首は甚だ佳篇なるが如し。余は其節調の如何に關はらずして詩想の點より斯く云ふ。されど是亦東洋古來の詩中に求め得べからざる詩想と云ふにもあらず。故に詩想の點より云はゞ敢て新躰詩と云ふべきにあらず。

節奏　篇中多くは七五の調より成る、偶ま然らざるが如く見ゆるものも七五の變躰のみ、全く新躰と見ゆる者は甚だ稀なり。故に新躰詩と云ふと雖も全篇新躰と思ふ可からず。然れども間々七五に非るものありて、作者の苦心思ひやらる、余は我國文學の爲め梅花氏の勞を謝す。余は氏が今日の新躰を以て未だ滿足する能ずと雖も、是より愈新躰詩の隆盛を來すべ

きを信じ、氏が益々文學の爲めに奮勵せられん事を希望す。

○同情同憐

去廿五日時事新報の社說として、福澤諭吉氏が「同情同憐」の文を揭げたるを見る、子を思ふの情を述ぶる所ろ、少しく言過たるに似たれど、冷々を以て尊としとする今の世に於て、かく言過るほどに情を吐白したるは、凡ならぬ見識と云ふべき哉。左ればとて、現在何等の苦痛もなくして、元氣よく家に眠食し、兄弟姊妹と共に談笑遊戲して餘念なき此子の腹を割て云々と思へば、恐ろしくも亦憫れにして直に思切ると能はず」とは、心のまゝに俗字を用ひて情に遺憾する所ろなし。更に一轉し世上子を持つ親々の爲めに同憐を表するに至つてはいよ〳〵善し。近日の名文字とす。

○日本評論

去廿五日發、その第廿六號に達りて、日本評論は未だ嘗てあらざるの大進化を爲し、劃然一段落を爲せり。特に、歐米思海、時事の二欄は、近ごろ他の雜誌に比類なき、溫厚と實用とを兼たり、歐洲文學の第六、バイロンの評は、非常の出來なり、中にも結末、バイロンとゴエテとの比較は、簡潔にして深長、植村君獨有の妙所を發揮す。

家政

○前號の問二つに對して　山下石翁

（一）一と通り英書を讀み得るほどの人は、ヨウマン氏の家政理學を以て、最良の家政書となす、目下之に超ゆほどのものあらし、府下にて此頃ろ之が譯述に着手せし人あり、遠からず、世に出んとす。

（二）何の經驗もなくして嫁ぎ、初めて一家の經濟を任せられたる以來の覺悟はさま〳〵ありと云へり。翁が聞ける二三の人の答のうち、いと感ずべきは、

帳面を細かにつけると、箱類は用意するとの二つを尤とも大切に思ひたりと云ふ人あり。混雜を防ぎ物の置所を定めイザ入用と云ふとき何ものは何處にありと直ぐに知らるゝやう箱類を多く調のへ置くときは、少とのものも后日の用にとて貯はふる覺悟も出で、置場所定まりて規律整然たる心地し行列の正しき兵卒に將たるの感ありていつも愉快なれば心しまりて自づから亂れざるの思ひも出で、さま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〳〵の好き習慣之より生じ來れり。又帳面を付くるとを細かにせざれば、入用高も、何事に入しかの仕譯も、總て分らず、知らぬ間に金の無くなりし心地すれば、亦知らぬ間に之を使ふとを何とも思はざるやうになり、此の癖久しく熟すれば、經濟上の亂暴となり、万事にしまりなきものとなる。故に幾度か失敗もし、又經驗もして、帳面と箱とを大切にするの覺悟が、第一なりと心付くに至れりとこそ申す。

又の人は、火鉢の火にありと云へり。火鉢の火を遊ばせず、無駄にせず、能いけ置とか、鐵瓶を掛て置とか、最早用なくば消壺に入るとか、總じて火鉢の火に目の付やうに成たる頃ほひより、自然に家の經濟に達したる心地出來るなり。夫ゆゑ、台所元に到り、火鉢の躰たらくを見れば、直さま、家の細君の締り工合を知るに足ると申せし人もあるなり。

ホーム議案

(四) ツルン、ミツラー女史の答

先入云へる事あり、曰く一月八弗の給料を以て下婢をして萬事を滿足になさしめんとするは誤謬なりと、勿論給料の一點に於ては今日は昔時と同じからずと云へども、其下婢に於ける困難(事を辨ぜさるより起る所の)に於ては、今も尙前代と變はる事なし。

人或は云ふ、十九世紀米國婦人の天職は斯々なりと。妾以爲らく年々他國より入り來る多くの下婢をして職業を覺えしめ家政を學ばしめ、他日良妻となり得べき資格を養はしむる者は、即ち天職を全ふするものなりと。蓋し斯くして多くの下婢を敎化する事を務めざれば、無智蒙昧の女子久しからずして内地に充滿し、家庭を治むる能はざるもの多きに至らん、此を思ふて下婢を敎化するにつとむる者は、實に國家の爲めに盡す所大ひなるものと云ふ可し。

されどとは一の大問題にして、其解釋に至ては世の婦女子に任せ、妾が下婢に對するの意見を簡短に述ん(第一)下婢を擇ぶに當り、妾の意に適せざる容貌の下婢を雇ず、蓋し容貌は必らずしも美ならざるも一種愛らしく見ゆる者あり、斯樣の者を雇ふ事必要なり、如何に其職分を全ふするにつとむるとも、若其容姿にして嫌惡すべく感ずる人ならんには到底共に久しく居る能はず、其一擧一動神經に不快を覺ゆる故、益嫌

悪するの心發達して懇切に敎化する能はざるあり、(第二)外形を裝ふが如きものは雇はず、(第三)私事の爲めに許諾を求むるものは不可なり、此は小事なりと雖も其性質の如何を卜するに足る、若下婢にして愛らしきものならんには細事は求めざるも余より自ら與ふるに至る可し。

下婢を雇ふ時、始めの程はそが心を喜ばしめんが爲め、亦己が家の如く感ぜしめん爲め、最も美はしき室に入れて優待し、恰も小兒を待遇するが如く、種々の物品を示して其心を樂ましめ、常に其身に心切なる保護を與ふ、是妾が下婢を敎化するの初歩なりとす。是小事の如く見ゆれども其結果に至つて、は著しきものあるなり。若下婢にして過ちあらば之を叱責する事なく、恰かも忠實に勸告するが如く云ひ、以て其非を悛めしむ。斯くすれば下婢にして不平の心を抱く事なし、度々告げて尚悛めざる者あれば止を得ず解雇す。斯る覺悟を以て下婢を待せしかば、妾は多年の間嘗て之が爲めに惱みし事なし。勿論何事も妾の意の如くなるには非ざれとも、下婢の行爲改まりて悪僻を除くに至る、是即ち敎化の任を全ふせるものと云ふ可し。

隨感

西鄕南洲先生

しのぶ

南洲先生未だ死せず、生きて近頃ろ歸へれりなど風評するものあり、若し眞なりせば何如にうれしからん、余は生きて再たび之に會はんとは思はず、たゞ數度び想像の裏に呼かへして、之を活かし親しむのみ。心あらん人、彼が詩文を讀むべし。其の偶成の詩に、若能識天意豈敢自謀安、と云ひ、其辛未の作に、南陬停囚獨竊生、一死何疑天附與と云ひ、其知賢の文に、大丈夫の世に處するや、亂世に當ては即ち撥亂反正の大功を立て蒼生を塗炭の中に濟ひ德業を千歲の後に傳へんと欲す、治世に當ては即ち弊政を革ため奢侈を戒め浮薄の人情を矯め大ひに仁政を行ひ其道を無窮に貽さんと欲す、是れ其志豈に區々功を立て事を成すに在らん哉、將に天の我に與ふる所以の者を盡し以て覆載の大恩に答へんと欲するにある耳と云ふ。更に世の其遺訓と稱する者を讀に、天道、天命、の字到る處に充てり。あゝ彼が能く大(グレート)たりし所以ん亦た考ふるとを得べし、彼は唯だ天道を重じ、人情に切な

りしのみ、大事に臨みて敢て巧慮曲思せず、常に平凡の常情を失はざりしのみ。彼、此を以て能く豪傑たりき。

唯物論

かすみ

余は虛無と名のる、余が名は伯虛無氏なり。余が生るゝ前に余れありしか、否。余が死する后ち余れあるべきか、否。余とは何ものぞ、生機によりて集まりたる些少の塵芥のみ。世上に存して余れ何を爲すべきか、たゞ苦樂の何れをか擇ぶにあり。苦しむの末は何事ぞ、虛無、左れど余れ苦しむとあり。樂しむの末は何事ぞ、虛無、左れど余れ樂しむとあり。余れ之に依て擇ぶとを知れり、人は食はざる可らず、然らずば食はるべし。故に余は食ふ。何んとなれば、草となるよりも齒となるとの優れるを知るが故なり」と。如此き唯物の徒は、多くは世の實相と人の眞情とを知らざるより生ず、彼をして志未だ成らず而して死に近づかしめよ、彼必らずや肉躰の外に靈あるとを直覺すべし、彼をして食ひ厭き飲足れるとき父母夫婦相愛するの樂しみを味はしめよ、靈の樂しみは何如に肉の樂しみに優るかを知らん。ミリエル君如此き人を評して云く、唯物論はひとり富める人の口頭に上ると。

笑ひ草

西洋料理

ふみ子

衣食住の三者は、何づれも必要ならぬはあらぬものから、西京の風は着仆れといひ、大阪の弊は喰仆れにありといふ。東京は何れにや、熟語は聞かねど、先づ觀察する所にては、喰倒れの方多かるべし。住み仆れといふは、何れにも聞かざるが、這は倒るといふ語、家の爲に禁物なればなるべし。あゝ彼も不可なり、是も宜しからず、殊に着物を以て、外見を衒ふの具とし、食物を以て快樂の隨一として飽くを求め、住居を以て其富の度を示すものとするに至りては、何れも其弊の甚しきものといふべし。只衣食住三者とも、分に應じて其權衡を保ち、食は滋養を專らとし、衣は攝生にも注意し、外見よりも寧ろ、空氣の流通、日光の通ひ宜敷家に住はんこそ、何人にも望ましきことなれ。

或る西洋料理屋の樓上に、卓を擁して、腰掛けたる四五の女書生あり。是は何れも同氣相求めて、食に熱心なる人のみとおぼし、殊に食は、西洋料理に限れりといふ主義なるにや、甲は西洋料理の好きなる人ならでは、夫に持まじといひ、乙

は此間郷里より父の出京したるに、西洋料理を勸めて喰させ、成程西洋料理は甘い、そなたも卒業して歸る迄には、是非覺へて置けと命ぜられたりと、いと、誇り貌に說く。彼一言是一言、傍に人のなきまゝに、おもひ〳〵に語らひ居たるが、其内の一人不圖心付き、いつになき料理の遲さよ、席に就きてよりはや三十分も過ぎぬらんに、何も持ち來らざるは如何にぞやといふに、皆々心付き、ボーイを呼びて其怠りを責めしに、ボーイは少しく頭を下げ、

「ハイ實は今日は、少し釜が壞れ升たので、ツイどうも大變遲くなり升て、不都合の段は幾重にも……只今直ぐに

といひて立去らんとするにぞ、皆々不興氣なる面貌なりしが、其中の一人

「ツー釜が壞れたの、フン、ダカラかまはないんですか。

といひしにぞ、失望は變じて、笑ひとなり、やがて快く食事を濟したりとぞ。

思ふに是はこれ此一群の笑ひにこそありつらめ、世の人是を聞かば、いかゞ思ふべきや、よも苦り草と、なるほどにもあるまじきか。

寄書

○教育上の僞善、鎖國論を讀む

川合信水

杯盤の外を潔くして、内に貪欲と淫慾を充たす、白く塗りたる墓、外美しくして、内に骸骨と汚穢を充たす、教育上の現狀豈見るに忍びんや、教育上の議論豈聞くに堪へんや、此際吾人は、燃るが、如き熱情を以て、迸るが如き血文字を出せるを見る、女學雜誌第二百五十四號の社說、教育上の僞善鎖國論是れ也、其論鋒の銳利なる、世運實の當るべからざる、恰も彼の阿斗を抱きし趙雲が、槍を揮て百萬の軍を驅破るが如し、彼れ胸に眞理、潔白、貞善、公義を抱けり、人強く氣壯なり、向ふ所敵なし、紛々たる幾千萬の僞善者、雷同者、披き靡て敗走す、何ぞ其戰ふ樣の美くしきや、勇ましきや、吾人は喜んで落淚して、膝を拍て喝稱す、其文の末段

青年よ、青年よ、吾人が氣息もし聞くべきあらば、乞ふ心を平らかにして靜かに聞け、大道に僞はりなく、主義に曲ぐると能はず、もし生ける證人を必要とせば、吾人が胸を叩け、吾人が胸を叩け、混々の血、言はざるの傷、昏を聞いて熱血を濺ぎ辨ぜんとす。

といふに至りては、墨痕淋漓、勇將大敵を破て、鮮血體に滴り、今ま懷より幼主を出さんとするを見るが如し、吾人幾度之を見るも、其感新た也。

○歌

立花寛篤

中三條故實美公

春雁入雲

咲花をつれなく見てや故郷乃雲井に歸る春の雁金

訪帝國議事堂炎燒趾

時めきしはかりやかたし今更にはかなき趾を見るぞ悲しき

詠故横井小楠翁

大空に光り限なく照月の雲かくれにし世のやみぞうき

天の道ありやなしやは白雲のかゝる憂世に果し君かな

詠大久保故利通公

國の爲身を白波のなみならで哀れはかなし果し君かも

國の爲盡す心のあだ櫻散りての後も世に匂ふなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○條約改正

此度の談判條目と云ふものは仄かに聞くに、大隈案に比べては更に一段の進歩を爲せり、吾人は固より之を歡迎せんとす。内地雜居を彼此と心配する者の如は、寧ろ杞憂に屬す。

○官省の改革

何處も多少の英斷行はるゝと見へたり、社會の爲に祝すべき哉、中にも大學に於ける節減の方法は、甚はだ高尚らしく亦頗ぶる利巧らしく見へぬ。加藤總長の智德は一きは目立ち來る。其他、非職、免官、兼務、轉役、タノム、辛棒、暫く、何分、などの文句あるのみ。

○櫻は咲きぬ

雲上に風あり、すさまじく吹荒る、屋下に地震あり、恐ろしく震ひ動く、左れど櫻花は時を蹈んで爛熳として咲ひ、天地の變、われに關はる所ろなしと、ほゝえむに似たり。

○女學生

醜聞を叫ぶもの切りに女學生々々々々と云ふ。然らば何によりて其女學生たるを知れりしかと云はゞ、其束髮によりてと答ふ。あゝ束髮。汝ち何如に女學界を苦しむ。「日本」の某記者は、女性が束髮は妻と妾と、乙女と細君との差別をまぎらわしくす、之を以て國躰に害あり、法律に毒ありと慷慨したるが、あゝ汝ち束髮は、女學生と賣淫者とを混淆するによりて更に一層惡むべきを知る。然りと雖どもたゞ束髮あるによりて直然之を女學生なりと速了するは、論者の神經餘りに過敏なるに非ずや、少しく氣を多きく持ち、緩りと養生して可なり。其うちには、條約改正論又々八釜しくなり、諸君が注意を此問題に惹くと能わざるに至らん。

○不景氣

春の陽氣なるに引換て、都は不景氣のゆえに宛から冬の心地す。政府は今年よりは餘程の儉約を爲し、出入のものに古しへの大相を示すと能わず。官員も餘程減じ、其子息も學校を引き、商人も賣り高減じ、新聞雜誌すら其影響を蒙むるに至る。獨り金の餘て使ひ道なきは金庫中の六百五十万圓のみ。

○總理伯

何人か其忠誠と勉强とに敬服せざるものある、たとひ輕滑少

才の人、伯を非とするものありと云へど、眞面目の罸ら、誰か伯を愛重せざらん、伯決して失意の地位に立つと思ふ勿れ、天下豈に眞知己なからんや。

○板垣君

いよ〳〵眞に總理し、他日內閣に代るに足るの準備を爲さんとて、黨員は部署訓練するの思付あるよし、吾人深く之を祝す。君自から余は政治家に非ずと告白す、是れ知言なるべし。左れど別に政治家あき世の中に於ては、君は遂に立派なる政治家たることを失なはず、君希はくはいつ迄も批評家の地に安んずる勿れ。

○殖民

坂垣伯も、榎本子も、近頃は殖民問題を放擲せられたる如く見ゆ。今后吾人が望む所ろの人は、谷子なり、鳥尾子なり、兩子何んぞ別に理想國を新開設するの勇を猶わざる、思ふに、今の內地日本は、公等が志を猶ふべき適地には非ず。

○米國に於ける日本女學生

洋行したる女學生は悉とく米國に洋行したり、洋行するほどの女學生は多く米國人の手にて敎育されたり。此を以て米國人が日本の女學生に對する感觸、世の常ならず。所分け、十年米國の敎育を受け、歸朝后四年華族女學校に敎授し、現に同校敎員たるの資格を以て目下米國留學中の津田梅子孃が、近頃ろ切りに日本女學の進歩を游說せられたるを以て、米國人の感觸一ときわ動きたりと見ゆ。津田孃最近の來信に云く、姉はブリンモウル女大學に來り、在ん限りの自由と便利とを供へらるゝにつけ、本國に於ける姉妹たる女學生の勉學を思ひ念ふといよ〳〵切なり、よつて、

姉妹留學の一便法

を得んことを工夫し、目下所々に遊說して、日本女學生留學資八千弗を募集中に侍る、いよ〳〵募集を了らば、其利子を以て、日本最高等の女學生一人を之にて支給し、四年間ブリン、モウル女大學に來つて學ぶことを得せしめ、四年後に更に第二の候補者を撰定せんと欲つす、扨て撰定の方は、日本の各府縣にて英文を以て試驗し、兼て漢學和學に達するものを擇ぶの工夫なり。募集の見込十分にて、確かに成就すと信ず、來る六月は歸朝の期なれば、遠からず面談の日あらん、其日は此の喜こばしき計畵の成就したる好報を齎らし歸らんと信ず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れど、今預じめ私しに之を告げ參らす、と。吾人は、孃が熱心我國女學生の爲に盡力せらるゝの好意を深く謝し、且つ此好計畫の必らず成就せんとを切に祈るものあり。

○外國婦人の慈善

去一日、佛國公使夫人その他の催ふしにて、鹿鳴館に素人演劇あり、其上り金を女子救養院に寄附して貧民の救助に供ふと云ふ、先づ結構なる趣向あるべし。

問答

可愛子

問。基督教を少しも知らぬ者の、能く解るやうな書物があらば教へて下さいまし。(こもゐ)

答。女學雜誌第二百四十九號を御覧下さい。

問。貴社發行の「女學生」へは、何人でも投書するとが出來ますか。(薔花女史)

答。出來ます、殊に婦女子の御投書は望む所です、ケレド載せるさ、載せあいさは、編者の心にあります。

問。思想を錬るに、何か善良なる書籍があらば、御教示を願ひます。(岡山愛梅子)

答。聖書をお調べになるか、論語のやうなものをお讀みになるか、佛書を研究なさるか、凡て宗教、神學、哲學に關する者は、よく思想を錬ります、其外數學を研究するも、大に思想を錬るものです。

●京都の愛讀者に申す　度々の御書面拜見致しました、御心の中はドレ程つらいとかさ推察致します、三月に發兇しました「女學生」十一號には、悲み、惱み、苦んだ人の述懷があります、就て御覽になりましたならば、幾らかお爲めになるともありませう、猶聖書をお讀みなさるとさ、祈禱をなさるとを怠ッてはなりませぬ、「神は愛して棄ち給ふ」さいふとを、よく記憶なさッて、斷へず祈禱の念をお持ちなさるが宜しう御坐います。

通信

可愛子編

●越后高田通信――廢娼運動(其二)　當地の基督教徒加藤壽遣氏は疾てより熱心なる廢娼論者にして此度の事實問題の起るや否率先盡力或は演說し或は諸方に奔走し去月廿三日の如きは北辰新聞紙上に東京廢娼壯年義會より吉原洲崎の娼妓へ送りし書面を掲載し同日午後六時頃右新聞紙百有餘枚を携帶し各軒毎に訪問の上同胞姉妹へ配付したり乞ふ滿天下の志士幾人よ吾人微力の徒に一臂の助けを添へよ。

●千葉通信　千葉師範學校女子部に於ては先頃生徒募集中なりしが此程三十名入學許可せられたり。

○同校助教諭小杉クラ子は當地に一の幼稚園なきを憂ひ之を設置せんさ有力家に就て勸誘盡力中の由。

○今回縣下にて內務省免許の產婆營業を出願せしもの二名ありて右試驗を來る二十五日縣立千葉病院にて執行するさのこさ。

○千葉產婆學校に於ては今回生徒募集に付入校申込みたる者十七八名に達したれども尙少しく欠員ある由○同校にて此程第二回速成科(六ケ月)を卒業せし平川ハル松浦ウラ加藤シンの三女子は本縣產婆營業鑑札を其筋へ出願せしさそ。

●岩手縣盛岡通信　共立岩手幼稚園は當地有志者の協力により創設せられたり生徒三十名內外にて師範學校附屬建物第九號室に於て授業し來りたる處如何なる都合にや現今は一時休止の姿なり。

○岩手尋常師範學校寄宿舍は今度新築せんさて本月より夫々工事に着手す。

○去月二十八日村木經策氏は盛岡婦人會に於て女學校設立の事に關し演說せり。

●和歌山通信　本縣より女子高等師範學校へ入學者一名あり。

○本縣尋常師範學校內へ女子部を設立せられたれば應募者大凡五十餘名ありたり其中二十六名假入學許可せらる。

○和歌山高等小學校女子部へ八個の尋常小學校より轉入生あり前年に比して五十名を增加せり前年は八十名許にして各年相均し。

○和歌山高等小學校女子部內溫習科を以て高等女學校の組織に變じ市會の決議を經て知事は之を認可せり。

○女子裁縫專門學校を設立するの議按に市會に提出せられ俗に縫屋さ稱する自宅教授の不規則にして往々宜しからぬ風習等あるを矯正するの目的を以て一ケ所に其摸範所を置く事に決せり。

○和歌山婦人會は昨年十月會則訂正後漸次其事業に着手し目下會員百三十一名石井知事夫人會務を總理せり。

○本願寺別院內婦人教會は目下會員六百餘名每月一回本山より巡回教師を派出せり。

○基督教婦人傳道會は其目的の通傳道地に教師を派出し又は會員各自に傳道す。

●高知通信 ○過日井上圓了氏來高して哲學館擴張の演舌を爲したるが右主趣を讃成して婦人會は同館へ寄附せんとて目下該金募集中の由。

○又婦人會員中には子守學校を設立せんとて盡力中なりと聞く。

○師範學校女子部教員仙頭糸女史は過日其職を辭して廣島縣に聘かれたり。

○女子高等師範學校へ入學を許されし者四名ありて何れも出京したり右の中三名は尋常師範學校卒業後教師となりたるもの又は全校四年生にして一名は中學校女子部卒業生なり。

○中學校女子部は此度又實業課の中へ染物科洗濯科理髮科等を設置せらるゝ由にて洗濯場体操場を兼ねて不日校内に建築せらるゝ筈なり。

○英和女學校鳴鸚會より發刊する室の梅と稱する雜誌は此頃其一號を發刊せり。

女報

可愛子編

○皇后陛下の恩賜 脚氣病豫防の景況被聞食度旨、皇后陛下の御沙汰に付、海軍々醫總監高木兼寛氏は、去月二十四日午後二時參内して、同陛下へ謁見し、該病豫防法に付き、氏が是迄海軍々人等、其他に經驗せし一伍一什を、詳細奏上せし處、陛下には御滿足に思召され、銀瓶一個、白七子一匹を下賜せられたりとぞ。

●華族女學校への行啓 皇后陛下には、去月廿七日午前九時卅分御出門にて、同五十分華族女學校に行啓遊ばされたり。

●皇女の御移轉 芝區伊皿子臺町へ曾て新築工事中なる、皇女常宮周宮兩殿下の御新殿は、略落成せしを以て、來る六月上旬青山の御殿より御移轉遊ばさるゝ由。

●山縣伯爵夫人 久しく大磯の別邸にありし同夫人は去る廿八日、目白の別邸へ歸れり、但し病は尚重しと聞く

●賞杯 澁澤榮一氏の夫人兼子は、精米一石六斗外に一種を、養育院へ施入せしを以て、此程木杯一個を下賜せられたり。

●福田會へ下賜 福田會育兒院には、今度皇后宮陛下の思召を以て、一ヶ年金三百圓を下賜せらるゝ事に御沙汰ありたり。

●鳥海女學校 本郷弓町二丁目に設立したる、私立鳥海女學校は、去る二日開校式を執行し、加藤弘之、中村正直、井上哲次郎等諸氏の演説ありし由。

●星亨氏の老母孝養の一班 同氏には、兼て老母の爲に、府下より程遠からぬ荏原郡某村に、最と靜閑なる別莊を設け、爰に老後の樂みを送らしめ居らるゝが其侍養料は一ヶ月一百圓宛なりといふ。

●養育院瓜生岩女史を迎ふ 福島縣會津の士族瓜生岩女といへるは、本年六十三歲の高齡なるが、女史は四十年來棄兒迷子等を育て上げたる亦數百人、或は會津の日新館を再興し、或は行旅者の困難を救ふの道を創設する等、感ずべき事業甚多き人なるが、今度東京市養育院は、女史親子(娘も單身にて目下四十五歲)を迎へて、幼童の世話掛となすとせり。

●女子高等師範學校卒業式 は去月廿五日、同校に於て舉行せられたり、當日の來賓は、芳川文部大臣、辻次官、文部省高等官、同所轄官立學校長、及び東京女子師範學校の卒業生凡そ百名にして、當日卒業せしは左の如し。

○女子高等師範學科卒業生 佐々木アキ 小貫 琴 戸澤 カズ
太田 ミツ 吉田 ノブ 三好 イ子 田中 クニ 吉川 鉁
藤村 欧 原 イク 窪田 スミ 安藤 ミチ 細野 銈
志賀 カマ 高澤 鋭 星名 喜興 池田 シノ

○小學師範學科卒業生 廣瀬 泰治

○附屬高等女學校卒業生 入澤 ミユキ 富田 アイ 櫻井 シゲ
高須 サヨ 岡部 トラ 小泉 ギン 高野 ムラ 熊澤 タマノ
小川 トヨ 加藤 カヨ 白井 ナトリ 岡田 テイ 石渡 シノブ
和田 アイ 波多 ユウ

○附屬小學校高等小學科卒業生二十人

●唱歌傳習生 唱歌傳習所に於て、大試驗を執行せしに及第せしは左の人々なり。
長濱 アキ 中川 カクヨ 西村 トメ 伊澤 トヨ 乙骨 チヨ
柿村 サタ 山田 佐太郎 竹村 芳野 植木 サク 保科 トキ
山崎 ヨシ 豐田 テル 岡村 セサ 和田 俊平 桐越 サワ
長谷川 イナ 中井 トヨ 田中 ウタ 神代 ハツ 田村 愛
野村 シヅ 益田 米三郎 渡邊 仙太郎 長谷川 敬行 辻 鐘太郎
花輪 タマ 間橋 フミ 山口 庄松 井上 ラク 三好 ヨシ
町田 カツ 中西 ツル

●珍らしき婦人 芝區本芝二丁目の牛肉店露木セイ(通稱中川屋)と云へる婦人は、此頃盲人輩が組織せし東向會の創立に付て、深く賛成し、十金を寄附したりとぞ。

●女髮結多し 細民日に困み、貧人の妻、夫を助けんとて髮結となるもの多し、競爭の爲め、結賃下落し、一錢にて丁寧に結ふものあり。

●外國貴婦人の慈善會 本月一日、佛國公使夫人を始め、京濱在留の外國婦人發起して、鹿鳴館に素人芝居を催し、其入場券を一枚二圓に賣捌き、其金額は女子教養院に寄附する筈。

●李公使の夫人 此程我邦へ到着せられたる、清國公使李氏の夫人及び妾二人は、未だ我國には來らず、近日來るとの事なり、聞く右の夫人は、曩に李氏が歐洲に同伴ありたるを以て、英語にも熟達し、天晴れ怜悧の貴夫人なりと、又先

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

頃西施楊妃云云の評判高き美人さいふは、公使が秘書官某の細君なりさ聞きぬさ東京日々新聞に見ゆ。

●幇間の慈善芝居　吉原の幇間は、四月中旬、市村座に於て、慈善會芝居を興行せんさす云々さ、新聞紙は記載せり、吾人は彼等が身の恥をも知らず、猶慈善會など、喋々するを聽きて、厭惡の至に堪へず、唾して之を叱す。

●曩きに植附許可せずさ聞きし洲崎の櫻　は許可せられて植附けたり。

●昨日の卒業式　昨日は成立學舍女子部並に頌榮女學校に於て卒業式ありぬ。

●婦人衛生會　にては育兒事業興役の爲め本日紅葉館にて有志義捐會を催す。

●廢娼演說　去月廿九日午後一時、上野廣小路上廣亭に於て、廢娼壯年義會の催にて、數名の辯士が熱心なる廢娼演說ありたり。

●存娼會　は富山縣富山市に現はれたり。

●富岡製縣場　は今度いよく拂下げに內決せり。

●三重紡績會社　は近來一種光澤を發する發明を爲せしより、聲價頗るよろしく各地方よりの注文も多く、二千余人の工男工女にて猶ほ不足を告げ、目下頻りに募集中のよし。

●同志社女學校文學會　同會は從來每學期の終りに當り、私かに行はれ居たりしが、今回より規摸を擴張し、廣く聽聞せしむるとさなり、三月廿七日午後一時すぎ樓上の講堂に於て開かれたり、當日は新島未亡人を始め教員諸氏並に令夫人も多く、又生徒の家族なる婦人も多く見受たりさいふ。

●山梨英和女學校　は、本年夏期中に新築せんさ、目下頻りに奔走計畫中なり。

●山梨縣尋常師範學校女子部卒業生　は今度六名程ありたり。

●大坂私立高等女學後　は現今在學生徒三百五十余名あり、昨年迄の卒業生四十八名にして、本年七月卒業せしもの五十余名あり、教員は男十七人、女九人ありさいふ。

●大坂府尋常師範學校女子部　は昨年の創設にして、現今生徒三十名あり、高等女子師範學校卒業の小川ハマ子幹事さ舍監を兼ぬ。

●防長婦人相愛會さ德山婦人協會紀念會　來る九日、防長婦人相愛會を同十一日德山婦人協會紀念會を、山口縣都濃郡德山女學校內相愛會事務所に於て開く、又九日より十一日まで、慈善會市を開く由。

●山口縣尋常師範學校女子部　にては去月、二十三名の卒業生を出せり。

●故小川幸藏氏の妻君　名は昌子、和漢の學に通じ、廣く史に通ず、品行方正肅格、嘗て職を金澤女學校に奉じ、轉じて京都女學校に還る、近頃辭し來りて、府下品川某方に居れりさ、詳細は三月二十七日の中正日報に就て見るべし。

●緒方某氏の妻女　が貞さ孝さ、理財に巧みなる事さは、三月十九日の東京日々新聞に見ゆ。

●故ベーコル夫人の寄附金　本誌第二百五十三號に記載せし米國の慈善家ベーコル夫人は、遺言して、金六千弗を、京都同志社に寄附したる由。

●米人の著書　アリス、ベーコン女子は久しく日本に教授し此頃米國に歸りて「日本婦女子」さ云へる著書を編輯中なるが近々いよく出版せんさす、津田梅子女史も大に助力せられたるよし。

●ユニチン、シグナル　米國婦人禁酒會の機關雜誌なる、ユニチン、シグナル雜誌社は、目下每週一回の發兌に凡そ八十五萬部を印刷する由なるが、遠からず百萬部に至るの見込あり、其他に種々の雜誌類をも兼て出版するを以て、社內には五人の主筆さ一百五十人の社員さあり、株金七萬五千弗にて配當は七分に當る。此度び、此の禁酒出版社の事務長さなりたるラスタル夫人は、ウイラード女史が生れ乍らにして出納家たり、經驗に由て會計家たりさ評したる人にて、五人の子ある母なれど、事務を管理するに非凡の妙を得たる由。

●普魯西に於ける小學生徒給食法　を聞くに、其費用は、重もに婦人慈善會の如きものより支辨するさいふ。

●獨逸の婦人種痘廢止を請願す　獨逸の婦人會は、曩に「女子に醫學及び藥學を研究するの權利を與ふべし」さ國會に請願し、委員は之を採用したる由なるが、今又種痘廢止の請願を提出したり、されど委員は之を採用せざるを勿論なりさ聞きぬ。

●印度和姦年齡　印度政府にて嘗て和姦年齡を十一歲より十二歲迄に定むるさの條例を發布せしかば、宗教に熱心なる人々は大に之に反對するよし、殊にベンガル人民の一部分及びマドラス人民の多數は痛く不同意を唱ふるさいふ、斯く人民の反對する所以は思ふに條例の可不可に係はるに非ずして彼等が逃世的の生活をなするの風俗に關係するが故なる可し、輿論の抵抗甚だ强くして政府も爲めに動搖するに至れり、北部の印度人は全く靜默すれども之を以て彼等は無頓着なりさ爲す可からず、されば政府は飽く迄其條例を維持せんさするも査官をして夫婦間の關係に關渉せしめざる樣なすべし、妻ある者の親戚にして願ふものあらば關係するも不可なく、條例の注意に至つては甚だよし、今日贊成する人少なきも必らず他日は不同意を唱ふる人なきに至る可し。

週報

●官令　三月二十八日勅令を以て明治六年大藏省達第百六十一號及明治二十二年閣令第四號廢止の件を裁可し公布せらる○同三十日勅令を以て武官々等表の改正陸軍將校服制中の改正、陸軍下士以下服制中改正の件海軍下士任用進級條例中の改正、の四件を裁可公布せらる○同日行政裁判所長官並評定官の年俸の件を裁可し四月一日より施行すべき旨命ぜらる。○三十一日勅令を以て公使館領事館費用事件を裁可せらる。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治女學校 卒業生會記事

〇大學祈禱會

明五日(日曜日)午後四時より本校にて例會を開く。且つ次學期以後改正の學科に付本校より協賛を得たき事由も有之趣に付、可成繰合せ來會被下度候。

〇ハリス氏送別會

明後六日(月曜日)午後二時より、米國へ一時歸着せらるべき教師ハリス氏夫婦兩君の爲め、本校にて送別會を開き且つ全校員一同寫影被致に付、一時半迄に來會有之度候。

右報道仕候

會員諸君御中　委員　白

成立學舍 女子部生徒募集

學期試驗結了ニ付 幼年科本科高等科別科 技藝科 各級ニ入學ヲ許ス志願者ハ至急申込ムヘシ

今般本部教員 棚橋絢子氏ニ監督ノ任ヲ囑托ス此段併セテ廣告ス

東京駿河臺袋町九番地

私立 成立學舍女子部

私立 明治女學校 新入生徒募集

定期試驗終れるに付新入生を募る。普通科は五年卒業にて小學尋常科卒業と同資格の人を迎ふ。英學專修科は、毎日二時間の授業にて高等の英學を教ゆ、自由に何れの組にも出席することを得。其他、國文、書學、皆な專修科あり。職業科は、縫箔、裁縫、速記、繪書の四科現に授業中にて尚ほ新入を許す。主計科は半年卒業にて、夏休后に第二期生を募る。尚ほ細則を望む人は、郵便切手二錢封入御申込あれ。

東京下六番町六番地 明治女學校

田口卯吉君　尾崎行雄君　肥塚龍君序

德富猪一郎君著

四版 新日本之青年

特別廉價二十錢　郵稅四錢

新日本青年の指南車、新人民の烽火臺、議論新警、文章奇拔、有用の好著書也、

著者自から本書に題して曰く「本書故ありて發賣を社會に絕てり、今や更らに之を刊行するは、教育界の現狀に就て、大に慨する者あるが故也、願くは天下の識者をして、本書の是非を判せしめよ」と、江湖の君子幸に一讀の勞を吝む勿れ

東京市日吉町 民友社

婦女雜誌

每月二回十日廿日發兌●每號密書數個插入●定價一册四錢〇六册前金廿二錢〇十二册前金四十二錢〇廿四册前金八十錢●郵稅五厘宛

第四號(三月廿五日發兌)目次

言の園 ●庭訓瑣言●婦女子の職業に從事するは是か非か……文學士添田壽一●婦人一生の務……松井廣吉

忍ぶ草 ●本朝名媛傳壽子文附小傳……小野田亮正●歐米古今十二女傑列傳(ローラン夫人)……澁江保

學の庭 ●祭瀧川酒舍●婦人教育衞生談(續)醫科大學醫狂生

文の林 ●作文のしをり……言靈香●千世の濱松(上)廣大院夫人●天つ少女(唱歌)中村秋

藻鹽草 ●東洋女訓(其三)内藤燦聚●拔萁孃の話し樓主人●馬鹿もの●書翰箋……梅花道人●不人情なる女房……蜃氣倫理科問題に就て……飯田さだ子

筆の花 ●明治女學校●全國婦女諸君寄送文數十章

懸賞課題 ●關路落花(四月十日限〆切)(和歌又は今樣)

少年文學第二編 三月廿五日發兌

紅葉山人著 武内桂舟畫

二人むく助

和裝美本仕立 密畫八十個插入

第壹編 再版出來 こがね丸 巖谷漣山人著

第三編 四月出版 今辨慶 江見水蔭著

第四編 二宮尊德翁 幸田露伴著

第五編以下は三昧。美妙。嵯峨のや。眉山。忍月諸君の傑作を引續き發行すべし

●少年文學正價一册拾二錢●六册前金六拾七錢●十二册前金壹圓二拾五錢●郵稅一册四錢宛●注文前金●郵劵代用一割增

發兌元 東京日本橋區本石町三丁目 博文館

再版 袖珍美本 一語千金

定價五錢 郵稅二錢

●●一語千金は小學校の賞品に適當也製本高尙優美なるが故に作文上に便利を與ふる大なるが故に而して價廉なるが故に

發兌元 東京日吉町 民友社

第三版 百人一首講義

鈴木弘恭述。

上製美本 五十錢 郵稅六錢
並製淡裝 三十五錢 同 四錢

陽春の讀書に宜し 遺物に宜し
歌留多遊びに宜し 詠歌に宜し

女學雜誌社

附錄女學の評

女學雜誌は毎月一回「附錄女學」（十四頁もの）一冊を添え、文學上の秀品を載す。第一號には、若松賤子の英文、小島官吾氏の論策、雲峯子が新躰詩あり。第二號には、安藤太郎氏の禁酒演說筆記を掲ぐ、禁酒上の小冊子としては蓋し上乘の品なるべし、配付もしくは寄送の料に宜し。第三號には雲峯子が新譯「盲女行」の詩を載せ。第四號には、ひさご女史が、秀麗の小說「車の轄」を收む。中に就き、第一號の批評、去廿九日の國會新聞に見ゆ、蓋し志賀重昂氏の文なり。云く、

●萬緑叢中紅一點若松賤子君の英文

おのれ常々曰ふ、世の中に最もつかはしからず、胸わるきものは公園の電氣鐵道、花觀に行きて花折る人、春雨の降りたる後に庭の草むしる人、淸らけき店前なる橫文字の看板なり。取別文字、語句など誤りたる橫文字の看板は笑ふに餘りあることなるが、東京府中の万千の橫文字看板はすべて誤り多く、其完きものは指折り數ふるばかりなれば此焦きも盡くしたくも思ひ、又は皇國の人は洋文などゆめゆめ綴るべからず、たゞさひ綴るも西洋人の物眞似の種のみさて普く世の生々き輩を戒めんと思ひけり。然るに此程女學雜誌社より此の英文を評して越さしれたる一篇は、同雜誌の二百四十二號の附錄中なる若松賤子さんと呼べる君の去る文學會にて讀まれたるものにぞありける。偖は又も皇國の人の英文がなるとさげすみつゝ閲みしたるに、思ひきやシムプル、イングリシュ体の最も優れたるものならんとは。その用辭の穩かなる、文体のすらすらとせし處など流石に女子の綴りたるものにて、男子のなさくくと及ばざる處なり。此若松さんと呼べる君は能く正則流の英語の教育を受られたる者ならん。世の多く英學を習ひたるものも皆な書籍のみ讀みたるとなれば英文は即ち書籍上より入り、書籍上より入りたる英文は自から澁き處もあり、僻もあり、四角張りたる處もありて、シムプル、イングリシュ体は如何樣にも綴り難し、なかなかに若松の君に及ぶべくもあらず。彼の吳大五郎氏のナインテヰーンス、センチユリー雜誌に寄せたる論文など、即ちおのれが是處に謂へる書籍上より入りたる英文なり、用辭と云ひ、文躰と云ひ、若松の君に劣るを幾等なるを知らず。唯若松君の文中 The intellectual assimilation and literary training for which this society proposes to furnish opportunity, are certainly desirable yea essential for us young students ;のyea は nay とせざれば語氣順ならず。又 Of course the modesty of the lady is highly to be admired, but as Miss Francis Willard says, "The world's work is to be apportioned according to the need and capability of its workers, の引用點以内の文字は成程ミツス、フランシス、ウヰラード女史の語なればTheのTは大字にて宜敷き樣なれど、セミコロンを付けダツシユを劃り尋常の引用語とせば兎も角此の引用語は前にasの字あれば、固より自分の文章の中に自分のものゝ如く挿み入れたるものなり、然れはTは大字にせす、尋常のtに改むべき樣覺ゆ。又 Happy is she who finds in this splendid field her specialty, for she may make it a noble and holy calling. のholyは此の句の結末に近ければ、猶ほ一入口調の强かなる語を用ひざるべからず、即ち lofty とか sacred とかになすを佳と思ふ。其他シムプル、イングリシュ体にprogramの字の如きは如何ぞや、又印刷の誤りにや honour とあるかと思へば忽ちにして honor とあり、What an inspiration must be the literary careers of H. B. Stowe, Mrs. Sigourney, Miss Mulock and others to those interested literature, in all its departments の interested とliterature の間に in の字を取り落したるなど最も口惜しき限りにこそ。それらは兎もあれなべて評はんに、若松の君の英文は固より此頃妙なるものにて、批評するの價値餘りもありとや曰はん。

右附錄女學、は月ギメの讀者ニ無代呈上す。別に求るものは定價四錢を要す。今后月ギメの讀者とある人は、其前に既に出版したる附錄女學のうち一冊は望みにより無代領收するとを得。

次回第五號の附錄女學には

巖本善治が起草に係る「國家教育を難ず」ニ「日本の基督教」てふ二大篇を掲げ、目下の宗教及教育に於ける時弊を摘露し、滿腔の愚見を吐出せんと欲す。

定價			
一冊。	六錢	郵稅。	五厘（但府內無郵稅）
十一冊。	五拾八錢	郵稅。	五厘（同前）
半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓八拾六錢	府外は	貳圓六拾錢

東京市麴町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

春天の好伴侶

農學士。寺尾熊三君著

植物學

一冊五十頁　定價十二錢

百花咲ひ、胡蝶すら之に戯むれ遊ばんとす、人や須からく其美妙を研究し、天地の全能を歎賞すべし。此書、植物學を尤とも平易に、尤とも分り易く解明す、今の時に際して、容易く草木一汎の妙理を悟るに至極の好方便を與ふ。定價僅かに十二錢に過ぎず。

林學士。星野愼之輔君著

採集法

植物　昆虫　金石

一冊　頁　定價十二錢

之を研究するに採集の法を知らざる可らず、採集法は、天地間の美妙を尤好く家内に集むるの工夫を敎ゆるものなり、植物もしくは昆虫金石を學ぶもの、此法を知らず人は常に野外に寶物を棄置くの憾あきとを得ず。今や花開き虫舞ひ、學生よ學生よ吾を汝が家に伴ひ給へと歌ふ、學生諸君何を以て彼等を家に懇待同伴するの心を起さざる、其心あるものは先づ之を親切に採集するの禮を知らざる可らず。此書甚はだ面白く此法を說き、定價極めて安し。

下六番町六番地　女學雜誌社

女學生　第十一號

一層改良して出で來りぬ、春色鮮明の圖あり花笑ひ鳥歌ふの樣紙上に躍然たり、殊に其所載の文は本號に至りて更に一段の美觀を添へたり、閱覽せよ此新雜誌を。

目錄左の如し

まとひの筵
文章の硬軟二派 …… 天知子
海邊の夢現 …… 晴光子
學校外の三奇觀 …… 如是生
川合君に與ふる書 …… 雲峰子
陛下に懸を書す …… 川合信水

睦びの花たば
鎌倉に遊ぶ(下) …… 灘采女史
私の嫁せざる理由(上の卷) …… 秋野女史
懸塚を過ぐ …… 青水女史
內大臣を悼みまつりて …… 岩崎菊江
吾が希望 …… 筒井くに
憐むべき身の果て …… 鈴木げん子
露の命 …… 松井せつ子

學びの志をり
漢文學＝唐詩選の解釋
翻譯考(第二)

寄せぶみ
眞誠の勇氣といふを讀む …… 川合信水
墓郷 …… 望郷生

春の夜ばなし
重盛公の溺死。小堀宗匠の啞然。能因法師のかんなくづ。時平大臣の奢風を改む。德川公珍菓を顧みず。

●女學生全盟各女學校は左の如し
○明治女學校○女子學院○新榮女學校○女子神學校○共立女學校○フェリス和英女學校○頌榮女學校○跡見女學校○立敎女學校○成立舍女子部○女子獨立學校○海岸女學校○長榮女塾○東洋英和女學校○青山英和女學校○金城女學校○高田女學校

毎月一回發兌●一冊郵稅共六錢

女學雜誌社發行